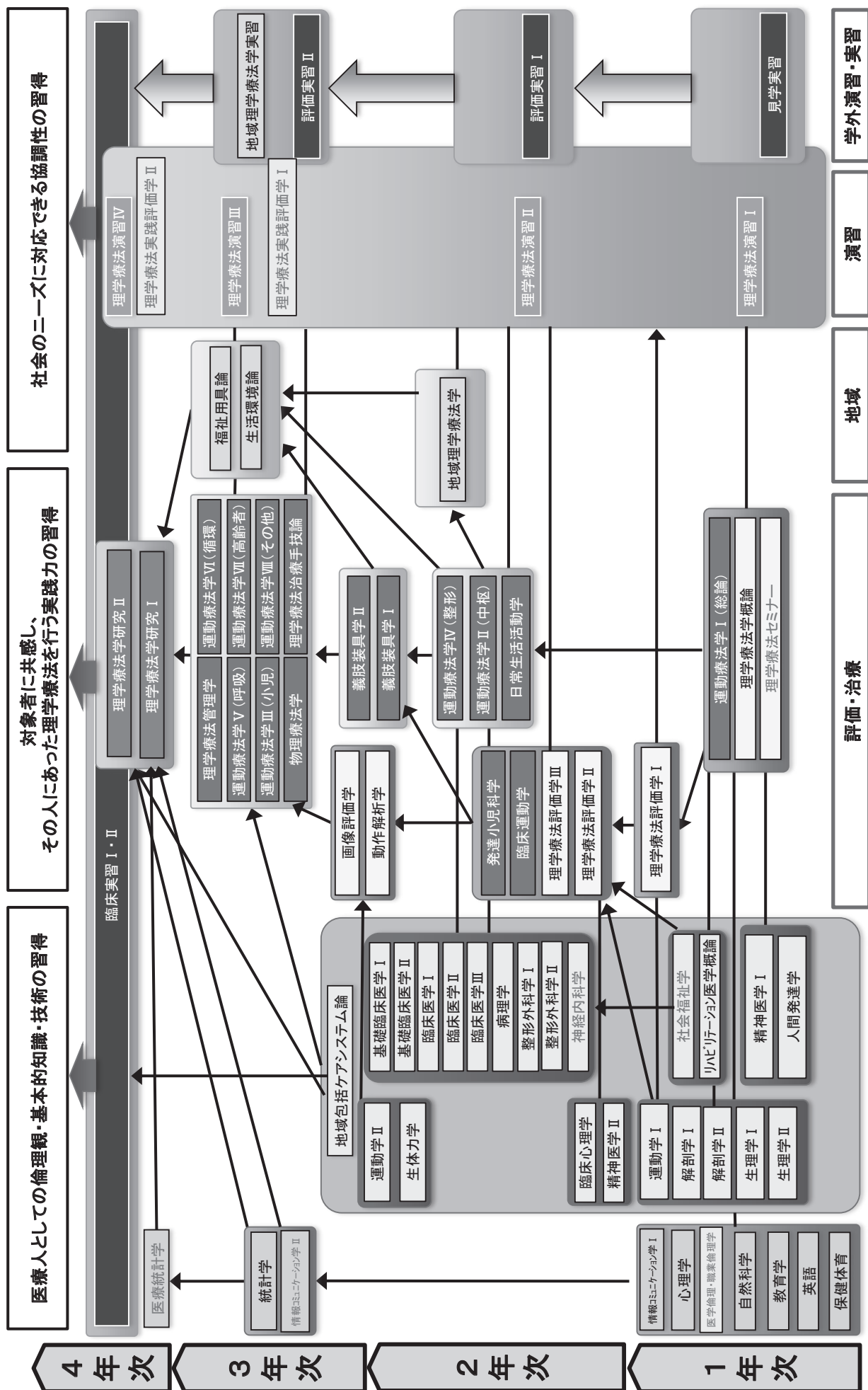


理学療法学科 カリキュラム
〈2・3年次〉

分野	教 育 内 容	科 目 名	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単位数	時間数	備 考	厚生労働 省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
基 礎 分 野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心 理 学	2	30							2	30		14
		自 然 科 学	2	30							2	30	生物学系	
		英 語	2	30							2	30		
		保 健 体 育	1	30							1	30	講義・実技	
		教 育 学	2	30							2	30		
		情報コミュニケーション学Ⅰ	1	30							1	30		
		情報コミュニケーション学Ⅱ					1	30			1	30		
		医学倫理・職業倫理学	2	30							2	30		
		統 計 学					2	30			2	30		
		医 療 統 計 学							1	30	1	30		
基 礎 分 野 小 計			12	210	0	0	3	60	1	30	16	300		14
専 門 基 礎 分 野	人体の構造と機能 及び 心身の発達	解 剖 学 Ⅰ	4	60							4	60		12
		解 剖 学 Ⅱ	4	60							4	60		
		生 理 学 Ⅰ	4	60							4	60		
		生 理 学 Ⅱ	4	60							4	60		
		運 動 学 Ⅰ	2	30							2	30		
		運 動 学 Ⅱ			2	30					2	30		
		人 間 発 達 学	2	30							2	30		
		生 体 力 学			1	15					1	15		
	疾病と障害の 成り立ち 及び 回復過程の促進	病 理 学			2	30					2	30		14
		神 経 内 科 学			2	30					2	30		
		精 神 医 学 Ⅰ	2	30							2	30		
		精 神 医 学 Ⅱ			2	30					2	30		
		臨 床 心 理 学			2	30					2	30		
		基 礎 臨 床 医 学 Ⅰ			2	30					2	30	栄養・救急救命・予防	
		基 礎 臨 床 医 学 Ⅱ			2	30					2	30	薬学・画像	
		臨 床 医 学 Ⅰ			2	30					2	30	外科学・脳神経外科学	
		臨 床 医 学 Ⅱ			2	30					2	30	内科学・小児科学	
		臨 床 医 学 Ⅲ			2	30					2	30	一般臨床医学	
		整 形 外 科 学 Ⅰ			2	30					2	30		
		整 形 外 科 学 Ⅱ			2	30					2	30		
	保健医療福祉と リハビリテーション の理念	リハビリテーション医学概論	2	30							2	30		4
		社 会 福 祉 学	1	15							1	15		
		地域包括ケアシステム論					2	30			2	30	自立支援・就労支援及び多職種連携含む	
専門基礎分野		小 計	25	375	25	375	2	30	0	0	52	780		30

分野	教 育 内 容	科 目 名	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単位数	時間数	備 考	厚生労働 省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
専 門 分 野	基礎理学療法学	理学療法学概論	2	60							2	60		6
		理学療法セミナー	1	30							1	30		
		臨床運動学			2	60					2	60		
		発達小児科学			1	30					1	30		
	理学療法管理学	理学療法管理学					2	60			2	60	職場管理、理学療法教育及び職業倫理含む	2
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	1	30							1	30		6
		理学療法評価学Ⅱ			1	30					1	30		
		理学療法評価学Ⅲ			1	30					1	30		
		動作解析学					1	30			1	30		
		画像評価学					1	30			1	30		
		理学療法実践評価学Ⅰ					1	30			1	30		
		理学療法実践評価学Ⅱ							1	30	1	30		
	理学療法治療学	運動療法学Ⅰ（総論）	1	30							1	30		20
		運動療法学Ⅱ（中枢）			2	60					2	60		
		運動療法学Ⅲ（小児）					1	30			1	30		
		運動療法学Ⅳ（整形）			2	60					2	60		
		運動療法学Ⅴ（呼吸）					1	30			1	30	喀痰等の吸引含む	
		運動療法学Ⅵ（循環）					1	30			1	30		
		運動療法学Ⅶ（高齢者）					1	30			1	30		
		運動療法学Ⅷ（その他）					1	30			1	30		
		理学療法治療手技論					2	60			2	60		
		物理療法学					2	60			2	60		
		義肢装具学Ⅰ			1	30					1	30		
		義肢装具学Ⅱ					1	30			1	30		
		日常生活活動学			1	30					1	30		
		理学療法学研究Ⅰ					1	30			1	30		
		理学療法学研究Ⅱ							2	60	2	60	卒業論文作成含む	
		理学療法演習Ⅰ	1	30							1	30		
		理学療法演習Ⅱ			1	30					1	30		
		理学療法演習Ⅲ					1	30			1	30		
		理学療法演習Ⅳ							2	60	2	60		
	地域理学療法学	生活環境論					1	30			1	30		3
		地域理学療法学			1	30					1	30		
		福祉用具論					1	30			1	30		
	臨床実習	見学実習	1	40							1	40		20
		評価実習Ⅰ			1	40					1	40		
		評価実習Ⅱ					3	120			3	120		
		地域理学療法学実習					1	40			1	40		
		臨床実習Ⅰ							8	320	8	320		
		臨床実習Ⅱ							8	320	8	320		
	専 門 分 野	小 計	7	220	14	430	23	730	21	790	65	2170		57
		総 計	44	805	39	805	28	820	22	820	133	3250		101

理学療法学科カリキュラムツリー



学 科	理学療法学科 3 年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	情報コミュニケーション学Ⅱ
代 表 講 師	高 田 理恵子（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	演習・講義	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	理学療法士として臨床実習および就職後に必要となる情報を収集、整理、発信できることを目的とする。医療現場における対人コミュニケーションや、記録作成（SOAP）、口頭報告や医療面接、患者説明、情報倫理などを演習形式で学ぶ。				
到 達 目 標	・医療現場における情報の重要性を説明できる。 ・SOAP 形式で適切な記録を作成できる。 ・患者に分かりやすい言葉で説明ができる。 ・多職種とも適切な情報共有ができ、必要なコミュニケーションがとれるようになる。 ・守秘義務・個人情報保護の重要性が理解できる。				
成績評価の方法と基準	形成的評価（100％）授業内での提出物などで評価を行う。				
テキスト・教材等	配布資料等				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	自己評価（対人援助者としての準備） 自己概念とは何かを理解し説明できる。自己肯定感化を理解し、高めるための行動ができるようになる。				
第 2 回	他者評価（対人援助者としての準備） 他者から見た自分を理解し自己理解を深めることができる。説明できる。				
第 3 回	「態度」 自分自身の態度や立場を考えることができ、医療従事者として求められる態度について説明することができる。				
第 4 回	対人関係の基礎 心の構成要素を学び、心の状態を理解する方法を体験する。				
第 5 回	自己管理 時間や健康・感情の管理を学び自分自身の状況を確認し課題や取り組み方法を明確にできる。				
第 6 回	自己管理 時間や健康・感情の管理を学び自分自身の状況を確認し課題や取り組み方法を明確にできる。				
第 7 回	コミュニケーション コミュニケーションの基本的知識を学び、観察や聞き方、伝え方を実践できる。				
第 8 回	コミュニケーション コミュニケーションの基本的知識を学び、観察や聞き方、伝え方を実践できる。				
第 9 回	医療面接 医療面接を通して理学療法に必要な情報収集ができる				
第10回	医療面接 医療面接を通して理学療法に必要な情報収集ができる				
第11回	記録の基本 SOAP を理解し、記録できるようになる。				
第12回	記録の基本 SOAP を理解し、記録できるようになる。				
第13回	医療情報リテラシー 信頼できる情報について学び、活用できるようになる。				
第14回	医療情報リテラシー 信頼できる情報について学び、活用できるようになる。				
第15回	まとめ 今まで学んだ知識を基に、医療人として求められるコミュニケーション能力とは何かをディスカッションできる。				

学 科	理学療法学科 3 年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	統 計 学
代 表 講 師	池 田 幸 広 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期：15 回 (30 時間)
授 業 概 要	統計の基本的な考え方を理解する。パソコンを用いて、エクセル関数及び統計ソフトを活用し、臨床的なデータを実践的に理解する。				
到 達 目 標	基本統計から応用統計まで学ぶ。卒業論文での統計処理ができる。				
成績評価の方法と基準	成績評価の方法と基準筆記試験 (80%) 及び講義における課題レポート (20%)。				
テキスト・教材等					
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	統計学の考え方、データの収集 (エゴグラムとストレスのアンケート調査)				
第 2 回	度数分布、クロス集計の求め方				
第 3 回	標本の代表値 (平均値、分散、標準偏差、中央値、四分位数)				
第 4 回	度数分布と適合性の検定				
第 5 回	クロス集計と独立性の検定				
第 6 回	正規分布について、正規性の検定				
第 7 回	相関係数 (ピアソンの積率相関係数、スピアマンの順位相関係数)				
第 8 回	回帰直線、相関係数の検定、相関係数の差の検定				
第 9 回	関連 2 群の表の検定 (1 標本 t 検定、ウィルコクソン検定)				
第10回	独立 2 群の表の検定 (2 標本 t 検定、マンホイットニー検定)				
第11回	ROC 分析、独立多群の差の検定 (分散分析、クロスカルワークス検定)				
第12回	関連多群の差の検定 (分散分析、多重比較) 因子分析、主成分分析				
第13回	多変量解析 (重回帰分析、多重ロジスティック回帰分析)				
第14回	第 1 回模擬問題の解説、第 2 回模擬問題 (自己学習用配布)				
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 3 年次	教育 内容	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	科目名	地域包括ケアシステム論
代 表 講 師	池 田 耕 治（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	理学療法士として必要となる地域包括ケアシステムについて「多職種連携」の観点から、基本的概要（理学療法士の立ち位置や仕事内容の多様性）について学習する。災害リハビリテーション、e-sport、フェムテック、パラリンピックなど、理学療法士が病院・施設以外で活躍する場面と地域リハビリテーション（地域包括ケアシステム）との関係について学習する。				
到 達 目 標	・地域包括ケアシステム及び多職種連携について基本的概要を理解し説明することができる。 ・関連職種（多職種）の概要と役割について理解し説明することができる。 ・病院・施設以外での理学療法士の役割りと地域リハビリテーションの関係について理解し説明できる。				
成績評価の方法と基準	[筆記試験] 実施しない [準備学習・その他] 事前課題の提出、確認テスト（診断的評価・形成的評価）及びその他の課題シートを総合して評価する。 [備考] 課題は熊リハ Moodle に提示し、提出期限等について記載している。授業の進捗度、理解度等により変更する場合もある。				
テキスト・教材等	配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	地域包括ケアシステム（１）システムの基礎的内容理解のためにを物語的に展開します。 ・利用者 A を主人公に、生活の変化→支援の必要性→地域包括ケアシステムの活用という流れを意識しながら、学生がペアワークやグループワークを通して実践的に理解します。				池田耕治
第 2 回	地域包括ケアシステム（２）災害リハビリテーションの観点からみた地域包括ケアシステム ・大規模災害における初動や保健医療調整本部立ち上げまでの行程などを体験する（REHSUG） 地域包括ケアシステム（３） ・令和 2 年度 7 月豪雨における熊本 JRAT の活動 地域包括ケアシステム（４） ・大規模災害要配慮者などへ展開される基本的リハビリテーション支援を体験する（DREAG） 地域包括ケアシステム（５） ・災害リハビリテーション支援の実際				佐藤 亮
第 3 回					
第 4 回					
第 5 回					
第 6 回	地域包括ケアシステム（６）e-Sports の観点からみた地域包括ケアシステム				池田竜太
第 7 回					
第 8 回	地域包括ケアシステム（７）フェムテックの観点からみた地域包括ケアシステム				辻 陽子
第 9 回					
第10回	地域包括ケアシステム（８）パラスポーツの観点からみた地域包括ケアシステム				新谷大輔
第11回					
第12回	地域包括ケアシステム（９）薬剤師からみた理学療法と地域包括ケアシステム				森 直樹
第13回					
第14回	地域包括ケアシステム（10）多職種連携からみた地域包括ケアシステム				池田耕治
第15回					

学 科	理学療法学科 3 年次	教育 内容	理学療法管理学	科目名	理学療法管理学
代 表 講 師	坂 崎 浩 一（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前期：30 回（60 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士として、職能団体の役員を担う教員が、理学療法管理の必要性和組織における管理のあり方、社会保障の概要、および職能団体における活動概要について説明指導する。				
授 業 概 要	理学療法士として、理学療法部門の業務を適正に管理運営するにあたっての管理についての理解を深め、国家資格取得後に現場で活動する医療人・組織人としての資質を高めることを目的とする。チームの一員としてまた、管理者として求められる社会保障制度の概要や職場での管理業務・リスク管理のあり方、自己管理や学生指導の基本的考え方等について理解を深める。職能団体の活動状況の理解を踏まえ、広く国民の医療・保健・福祉の向上に資するための取り組みについて学ぶ。授業中は、関連機関のホームページ等を検索しながら最新の情報に触れる機会を持つ。				
到 達 目 標	理学療法管理学の必要性を説明できる。 病院等の組織とその管理のあり方を説明できる。 社会保障の概要を説明できる。 リスク管理、感染対策について説明できる。 職能団体の活動内容について説明できる。				
成績評価の方法と基準	確認試験：50%、課題レポート・発表：10%、前期試験：40%				
テキスト・教材等	『理学療法管理学』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	理学療法と管理学の背景 ・病院管理学と医療管理学 ・人口構造と制度の変遷				
第 2 回	理学療法と管理学の背景 ・理学療法士教育における管理学の必要性 ・日本理学療法士協会の取り組み				
第 3 回	病院の分類と組織 ・医療法と関連法規				
第 4 回	病院の分類と組織 ・地域医療計画制度と地域完結医療 ・医療施設の分類				
第 5 回	専門職とチームケア ・チームケアの必要性和その背景				
第 6 回	専門職とチームケア ・医療におけるケアチームと各種委員会				
第 7 回	確認試験① 社会保障の仕組み ・社会保障の構成要素とその役割 ・保険料を財源とする社会保険				
第 8 回	社会保障の仕組み ・税金を財源とする生活保護・社会福祉・公衆衛生 ・社会保障の機能 ・税金と保険料負担				
第 9 回	医療保険制度 ・医療保険制度の歴史と概要 ・医療保険制度体系の概要				
第10回	医療保険制度 ・医療保険制度体系の概要 ・高齢者医療制度				
第11回	介護保険制度 ・介護保険制度の特徴 ・申請から介護認定まで				
第12回	介護保険制度 ・ケアプラン作成とサービス利用 ・高齢者の住まい				

回 数	授 業 内 容
第13回	確認試験② 診療報酬・介護報酬と収益構造 ・出来高払いと包括払い ・包括的医療費支払制度
第14回	診療報酬・介護報酬と収益構造 ・急性期一般病棟入院基本料の概要 ・回復期リハビリテーション病棟における診療報酬の概要
第15回	診療報酬・介護報酬と収益構造 ・疾患別リハビリテーション料 等 ・介護報酬の仕組み ・訪問リハ、通所リハ、老健における介護報酬
第16回	診療報酬・介護報酬と収益構造 ・人件費とコスト ・給与の背景
第17回	保健・医療・介護・福祉の連携 ・保健医療福祉介護の連携の概要 ・保健と医療の連携
第18回	保健・医療・介護・福祉の連携 ・保健・医療・介護・福祉の連携 ・障害と福祉
第19回	確認試験③ 業務管理 ・理学療法業務の流れ ・他職種との連携
第20回	業務管理 ・業務管理、労務管理 ・ハラスメントへの対応、ストレスへの対応
第21回	業務管理 ・人事考課 ・新人理学療法士のための職員研修 ・OJT, offJT
第22回	業務管理 ・業務改善 ・監査への対応
第23回	情報管理 ・理学療法に必要な情報と診療記録とその管理
第24回	情報管理 ・必要な情報を得るためのコミュニケーションと接遇
第25回	リスク管理 ・医療介護におけるコンプライアンス ・インシデントとアクシデント
第26回	リスク管理 ・ハインリッヒの法則 ・安全への取り組み
第27回	中間試験④ 感染症対策 ・感染症の構成要素
第28回	感染症対策 ・感染症の予防 ・感染対策と理学療法
第29回	権利擁護と職業倫理 ・インフォームドコンセント ・職業倫理 ・コンフリクトマネジメント 理学療法士が支える組織 ・日本理学療法士協会の活動 ・日本学療法学会連合の活動 ・日本理学柳雄法師連盟の活動
第30回	試 験

学 科	理学療法学科 3 年次	教育 内容	理学療法評価学	科目名	動作解析学
代 表 講 師	松 原 誠 仁（所属：熊本保健科学大学）				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	人間の動作や運動に関わる諸原理と臨床上の問題との関係を学ぶ。また、1 つの課題に対して、グループで協働して調査し、得られた結果をまとめて発表する。				
到 達 目 標	①力学的原理に基づく運動の記述と解釈ができる。 ②姿勢の計測と記述および解釈ができる。 ③動作の計測と記述および解釈ができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験（70%）・課題レポート（15%）・プレゼンテーション（15%）				
テキスト・教材等	『臨床歩行分析ワークブック』、プリント、その他 資料配布				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	動作解析学の概要：理学療法における動作解析の領域、臨床上の問題				
第 2 回	運動学的分析①：身体運動の運動学的表現				
第 3 回	運動学的分析②：身体重心の算出と運動連鎖				
第 4 回	身体運動分析の実際：kinovea を用いた運動学的分析				
第 5 回	身体運動分析の実際：3 次元自動動作分析装置を用いた運動学的分析				
第 6 回	運動と力①：力の作用、モーメント、つり合い式				
第 7 回	運動と力②：運動の法則、地面反力				
第 8 回	運動力学的分析①：関節トルク、パワー、エネルギー				
第 9 回	運動学的分析と力学的分析：筋活動量の推定				
第10回	運動力学的分析の実際：地面反力計				
第11回	データ処理演習①：運動学的分析のデータ処理と解釈				
第12回	データ処理演習②：運動力学的分析のデータ処理と解釈				
第13回	データ処理演習③：筋活動と動作の推定				
第14回	総合ディスカッション：課題レポート発表とディスカッション				
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 3 年次	教育 内容	理学療法評価学	科目名	画像評価学
代 表 講 師	高 嶋 美 和（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	臨床実務経験を持つ講師が、理学療法プロセスにおける情報収集の要点として、医用画像情報の解釈と活用方法を講義する。				
授 業 概 要	画像所見を理学療法評価の根拠（クリニカル・リーズニング）として統合する手法を学ぶ。対象者の病態を多角的に把握するための実践的な画像評価技術を修得する。				
到 達 目 標	1. 正常な画像情報を読影し、解剖学的に把握・説明できる。 2. 主要な疾患（骨折、脳血管障害、呼吸器疾患等）における X 線、CT、MRI 画像から、解剖学的な損傷部位や病態を判読し、身体機能障害との関連性を説明できる。 3. 画像所見から得られた情報を基に、理学療法実施における禁忌事項や負荷量の制限、術後合併症のリスクを予測し、安全な介入計画につなげることができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験				
テキスト・教材等	リハビリテーション医療に活かす画像のみかた 症例から学び障害を読み解く、水間正澄・川手信行、（株）南江堂 ISBN:978-4-524-25907-6				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	画像読影の基礎（総論） ・ X 線、CT、MRI の原理と特性、読影の基本ルールについて理解する。 ・ 画像の方向（水平断、冠状断、矢状断）と解剖学的位置関係を一致させることができる。				高嶋美和
第 2 回	中枢神経系の画像読影（正常像） ・ 脳の基本構造（大脳皮質、基底核、内包、脳幹、小脳）の同定できる。				〃
第 3 回	国家試験問題を通して中枢疾患の画像を理解する。				坂本勝哉
第 4 回	国家試験問題を通して中枢疾患の画像を理解する。				〃
第 5 回	国家試験問題を通して中枢疾患の画像を理解する。				〃
第 6 回	運動器疾患の正常画像を理解し、説明ができる。				高田理恵子
第 7 回	国家試験に出題される運動器疾患画像を理解し、説明ができる。				〃
第 8 回	国家試験に出題される運動器疾患画像を理解し、説明ができる。				〃
第 9 回	呼吸器・循環器系の画像読影（正常像） ・ 胸部 X 線・CT における肺野、心影、横隔膜、肋骨挙角の観察ができる。 ・ 胸部画像における正常な解剖学的指標（心胸郭比：CTR など）を計測・説明できる。				高嶋美和
第10回	呼吸器疾患の画像読影と理学療法評価 ・ 肺炎、肺気腫（COPD）、無気肺、胸水の画像所見について理解できる。 ・ 透過性の低下や亢進から病態を推測し、排痰療法の適応部位を判断できる。				〃
第11回	循環器疾患の画像読影と理学療法評価 ・ 心不全（心拡大、肺うっ血）の画像所見について理解できる。				〃
第12回	循環器疾患の画像読影と理学療法評価 ・ 心不全徴候（肺水腫、胸水貯留など）を画像から読み取り、離床の可否などのリスク管理に繋げることができる。				〃
第13回	消化器系の画像読影（正常と異常） ・ 腹部単純 X 線、CT における消化管ガス、各臓器の配置について理解できる。 ・ イレウス（腸閉塞）や腹水貯留などの異常所見を判別し、運動療法時の注意点を説明できる。				〃
第14回	運動器・末梢血管の超音波（エコー）評価： ・ 筋・腱の連続性や滑走性をリアルタイムで観察する意義を理解する。 ・ 深部静脈血栓症（DVT）のスクリーニングにおけるエコーの重要性を説明できる。				〃
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 3 年次	教育 内容	理学療法評価学	科目名	理学療法実践評価学 I
代 表 講 師	明 瀬 敬 二 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・実技	単位数	1	学期・回数	後期：15 回 (30 時間)
授 業 概 要	本講義では、理学療法プロセスにおける「検査・測定」の理論と技術を習得し、得られたデータから患者の状態を正しく解釈するための臨床推論の基礎を構築します。単に数値を測る技術者ではなく、その数値が「生活のどの困難に繋がっているのか」を考える視点を養います。				
到 達 目 標	各検査・測定の目的を説明し、適切な手順と肢位で実施できる。 対象者の安全とプライバシーに配慮し、適切なリスク管理と声掛けができる。 測定誤差の原因を理解し、客観的で再現性の高いデータを記録できる。 得られた検査結果を正常値と比較し、身体的問題点を抽出できる。				
成績評価の方法と基準	形成的評価 100%				
テキスト・教材等	『標準理学療法学理学療法評価学』他				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	理学療法評価の概論とプロセス 内容：評価の目的、ICF（国際生活機能分類）に基づいた情報の整理、評価の進め方。 ポイント：「検査・測定」と「評価（アセスメント）」の違いを明確にします。				
第 2 回	医療面接（インテークインタビュー） 内容：主訴の聴取、コミュニケーション技法（オープン質問・クローズ質問）、リスク管理のための情報収集。 ポイント：患者との信頼関係を築く第一歩としての評価を学びます。				
第 3 回	視診・触診の基礎 内容：身体のマランドマーク（骨指標）の同定。 ポイント：正確な測定には、正確な触診が不可欠であることを理解します。				
第 4 回	形態測定（周径・下肢長） 内容：肢位、メジャーの当て方、浮腫や筋萎縮の定量化。 ポイント：左右差の意義と、誤差を減らすための工夫。				
第 5 回	関節可動域測定（ROM）①：上肢 内容：肩・肘・手関節の測定意義、基本軸・移動軸・参考可動域。 ポイント：ゴニオメーターの正しい操作とエンドフィール（終末感）の理解。				
第 6 回	関節可動域測定（ROM）②：下肢 内容：股・膝・足関節の測定。 ポイント：代償動作の抑制と、骨盤の固定技術。				
第 7 回	関節可動域測定（ROM）③：体幹・頸部 内容：回旋、屈伸、側屈の測定。 ポイント：複雑な動きをどう数値化するか。				
第 8 回	徒手筋力テスト（MMT）①：原理と上肢 内容：Daniels らの 6 段階評価基準、重力の影響。 ポイント：正しい抵抗の加え方と、触知の重要性。				
第 9 回	徒手筋力テスト（MMT）②：下肢 内容：股関節周囲筋、膝・足関節の筋力テスト。 ポイント：臨床で頻用される筋群の評価。				
第10回	徒手筋力テスト（MMT）③：体幹・応用 内容：腹筋群、背筋群の評価。 ポイント：姿勢保持能力と筋力の関連性。				
第11回	感覚検査 内容：表在感覚（触覚・痛覚）、深部感覚（位置覚・振動覚）。 ポイント：デルマトーム（皮膚分節）の理解と検査の標準化。				
第12回	反射・筋緊張の評価 内容：深部腱反射、病的反射、アシュワーススケール（MAS）。 ポイント：神経学的所見の捉え方。				
第13回	臨床推論の基礎（ケーススタディ） 内容：収集したデータから「何が問題か」を抽出する演習。 ポイント：評価結果の統合と解釈（統合と解釈のプロセス）。				
第14回	実技総括・OSCE 対策 内容：これまでの実技の総復習と、模擬実技試験。 ポイント：手技の正確性と、被検者への配慮（声掛けなど）。				
第15回	期末実技 内容：習得度の確認。 ポイント：臨床に出るための最低限のスキルの定着を確認。				

学 科	理学療法学科 3 年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	運動療法学Ⅲ（小児）
代 表 講 師	高 嶋 美 和（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・実技	単位数	1	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	医療機関や療育施設等で小児リハビリテーションの実務経験を有する理学療法士が講師を担当する。臨床現場での知見に基づき、小児の代表的な疾患に対する評価指標の選定から、具体的な治療プログラムの立案・実施プロセスまでを体系的に講義する。				
授 業 概 要	小児期に発症する疾患と障害に対するリハビリテーションにおいて、原因、症状、評価、予後予測についての基礎的な知識を学修する。				
到 達 目 標	代表的な小児疾患（脳性麻痺、二分脊椎、ダウン症候群、進行性筋ジストロフィー）および医療的ケア児の病態と発達の特徴を網羅的に理解する。各疾患の特性に応じた理学療法評価を選択・実施し、ICF（国際生活機能分類）の視点に基づいた適切な理学療法プログラムの立案方法について学ぶ。				
成績評価の方法と基準	講義中の講義レポートを含む形成的評価 100%				
テキスト・教材等	『子どもの感覚運動機能の発達と支援（改訂第2版）』 その他、配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	定型発達 (1) 運動発達 ・原始反射の誘発手技と出現時期、統合時期（消失時期）を理解する。 ・月齢ごとの粗大運動、微細運動の発達を理解する。				
第 2 回	定型発達 (2) 精神発達 ・子どもの精神発達について、ピアジェの発生的認識論を理解する。 ・摂食嚥下機能の発達を理解する。				
第 3 回	痙直型脳性麻痺 (1) 総論 ・痙直型脳性麻痺の病態と運動障害のタイプ、運動や認知の発達を理解する。 ・痙直型脳性麻痺に対する理学療法評価を理解し、プログラム立案ができる。				
第 4 回	痙直型脳性麻痺 (2) 乳幼児期～幼児期 ・痙直型脳性麻痺の乳幼児期における病態と自然経過を理解する。 ・乳幼児期の痙直型脳性麻痺の理学療法評価と介入を理解し、理学療法の目標設定とプログラムの立案ができる。				
第 5 回	痙直型脳性麻痺 (3) 学童期～成人期 ・痙直型脳性麻痺の学童期以降の発達の特徴を理解する。 ・痙直型脳性麻痺の運動発達と二次障害を想定した理学療法評価と介入方法について理解する。				
第 6 回	アテトーゼ型脳性麻痺 ・アテトーゼ型脳性麻痺の特徴を理解する。 ・アテトーゼ型脳性麻痺に対する理学療法評価と介入のポイントを理解し、適切なプログラムを立案できる。				
第 7 回	アテトーゼ型脳性麻痺 ・アテトーゼ型脳性麻痺の特徴を理解する。 ・アテトーゼ型脳性麻痺に対する理学療法評価と介入のポイントを理解し、適切なプログラムを立案できる。				
第 8 回	重症心身障害 ・重症心身障害の定義と臨床像、合併症を理解する。 ・重症心身障害に対する理学療法評価と理学療法に不可欠な ICF の「環境因子」を理解する。				
第 9 回	二分脊椎 ・二分脊椎、合併症、分類、外科的治療を理解する。 ・二分脊椎、ペルテス病の理学療法評価と介入、リスク管理について理解する。				
第10回	二分脊椎 ・二分脊椎、合併症、分類、外科的治療を理解する。 ・二分脊椎、ペルテス病の理学療法評価と介入、リスク管理について理解する。				

回 数	授 業 内 容
第11回	デュシェンヌ型筋ジストロフィーなど ・デュシェンヌ型筋ジストロフィーの病態と合併症、医療的介入について理解する。 ・デュシェンヌ型筋ジストロフィーの評価と理学療法プログラムが立案できる。
第12回	ダウン症候群 ・ダウン症候群の病態と合併症、運動や認知の発達を理解する。 ・ダウン症候群に対する理学療法評価を理解し、適切なプログラムを立案できる。
第13回	低出生体重児、ハイリスク児 ・低出生体重児、ハイリスク児の神経学的予後と発達遅延のリスクを知り、理学療法介入の意義を理解する。 ・低出生体重児、ハイリスク児の特徴と合併症を理解し、リスク管理をふまえた理学療法評価・介入について理解する。
第14回	発達障害 ・発達障害の各疾患の病態と合併症、運動と認知の発達を理解する。 ・発達障害に対する診断と理学療法評価を理解し、適切なプログラムを立案できる。
第15回	就学支援—特別支援教育、学校教育 ・特別支援教育や学校保健に携わる理学療法士の役割を理解する。 ・就学支援や地域サービスを理解し、学童期の子どもにかかわる機関・施設間連携のための理学療法士の役割について説明できる。

学 科	理学療法学科 3 年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	運動療法学Ⅴ（呼吸）
代 表 講 師	高 嶋 美 和（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	医療機関や療育施設等で小児リハビリテーションの実務経験を有する理学療法士が講師を担当する。臨床現場での知見に基づき、呼吸器の代表的な疾患に対する評価指標の選定から、具体的な治療プログラムの立案・実施プロセスまでを体系的に講義する。				
授 業 概 要	呼吸理学療法は、内科・外科系疾患や急性期・慢性期を問わず、新生児から高齢者まで幅広い患者様を対象とする。本講義では、まず運動に伴う呼吸・循環反応の基礎を学習し、それらの障害が身体機能に及ぼす影響について理解を深める。次いで、呼吸器系の基本的な評価法および治療技術を習得する。さらに、慢性閉塞性肺疾患（COPD）や間質性肺炎などの慢性呼吸不全に対する理学療法の役割と実際について学び、あわせて吸引操作の演習を行う。				
到 達 目 標	1. 内科・外科疾患、急性期・慢性期、および全年齢層における呼吸理学療法の適応と役割を説明できる。 2. 運動に伴う呼吸・循環反応の生理的メカニズムを説明できる。 3. 呼吸・循環機能の障害が身体機能に及ぼす影響を列挙できる。 4. 呼吸器系障害に対する基本的な評価項目を理解し、模倣・解釈できる。 5. 基本的な呼吸理学療法の治療技術（コンディショニング、排痰法など）を適切に選択・模倣できる。 6. 吸引療法の意義と目的を理解し、安全な操作手順について説明できる。				
成績評価の方法と基準	講義中の講義レポートを含む形成的評価 100%				
テキスト・教材等	『最新理学療法学講座 内部疾患理学療法学』				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	呼吸理学療法総論-呼吸の概念と呼吸リハビリテーションの必要性の理解 ・運動と呼吸・循環反応の関係を理解する。 ・呼吸リハビリテーション、呼吸理学療法の概要を理解する。				
第 2 回	呼吸器系の解剖学・運動学 ・呼吸にかかわる臓器、筋肉、骨を理解する。 ・呼吸に伴う胸郭の運動を理解する。				
第 3 回	呼吸器系の生理学 ・換気とガス交換について理解する。 ・動脈血液ガス分析値、呼吸機能評価を理解する。				
第 4 回	呼吸不全の病態と呼吸器疾患 ・呼吸不全の病態を理解する。 ・呼吸不全を呈する代表的な疾患の症状と病態を理解する。				
第 5 回	呼吸理学療法のための評価 (1)-医療面接（病歴聴取、問診）とフィジカルアセスメント ・呼吸理学療法を実施するための評価法（フィジカルアセスメント）の内容を理解し、実際の方法を習得する。				
第 6 回	呼吸理学療法のための評価 (2)-その他の評価法 ・呼吸理学療法を実施するための運動耐容能評価、ADL・QOL 評価、画像所見の評価の内容および実施方法を理解する。				
第 7 回	呼吸理学療法基本手技 (1)-コンディショニング ・呼吸理学療法におけるコンディショニングの目的や効果を理解し、実際の方法を習得する。				
第 8 回	呼吸理学療法基本手技 (2)-排痰法・排痰で用いる徒手的手技 ・呼吸理学療法における排痰法の目的や方法を理解し、実際の徒手の排痰手技を習得する。				
第 9 回	呼吸理学療法基本手技 (3)-呼吸困難改善のための手技 ・呼吸不全患者の呼吸困難のメカニズムを理解し、その改善のための手技を習得する。				
第10回	呼吸理学療法基本手技 (4)-運動療法 ・呼吸リハビリテーションにおける運動療法の位置づけ、意義、効果を理解し、実際の方法を習得する。				

回 数	授 業 内 容
第11回	酸素療法と呼吸理学療法 ・酸素療法の意義、目的、方法、合併症と運動療法中の酸素吸入の意義と効果について理解する。
第12回	人工呼吸療法と呼吸理学療法 人工呼吸療法の目的と役割、基本的なモード、人工呼吸管理中の呼吸理学療法の実際について理解する。
第13回	疾患別呼吸理学療法 (1)－慢性呼吸不全（薬物療法を含む） ・慢性呼吸不全患者に対する呼吸理学療法の実際について、評価から治療の実際までの一連の流れを理解する。
第14回	疾患別呼吸理学療法 (2)－急性呼吸不全（外科手術前後、集中治療） ・急性呼吸不全患者に対する呼吸理学療法の実際について、評価から治療の実際までの一連の流れを理解する。
第15回	吸引 ・呼吸理学療法における吸引の意義を理解したうえで、安全かつ清潔な吸引操作の方法を習得する。

学 科	理学療法学科 3 年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	運動療法学VI（循環）
代 表 講 師	次 山 航 平 村 上 裕 一（所属：谷田病院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	急性期や慢性期での心臓リハビリテーションを有する講師が、患者さんの評価、治療、生活支援等の経験を活かし、運動療法の適応と禁忌、リスク管理を踏まえ、循環器疾患における必要な基礎知識や運動療法の方法について講義を行う。				
授 業 概 要	循環器疾患の病態・評価を学び、リハビリテーションの意義やリスク管理、運動療法の実際について学ぶ。				
到 達 目 標	1. 循環器の解剖学・生理学の知識をもとに循環器疾患に対する評価や理学療法を理解する。 2. 心不全や急性冠症候群・大血管疾患などの病態を理解する。 3. 運動療法実施の際のリスク管理について理解する。				
成績評価の方法と基準	形成的評価（30％）、筆記試験（70％）				
テキスト・教材等	『病気がみえる〈vol.2〉循環器』、『最新 理学療法講座 内部疾患理学療法学』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	心臓リハビリテーションの目的や効果を理解して、説明できる。				次山航平
第 2 回	循環器系の解剖・生理（心房、心室、弁の構造と役割など）について理解し、説明できる。				〃
第 3 回	血圧、脈拍などの循環器系の基礎的な評価について理解し、説明できる。				〃
第 4 回	心電図の基礎と頻脈性不整脈について理解し、説明できる。				〃
第 5 回	徐脈性不整脈について理解し、説明できる。				〃
第 6 回	虚血性心疾患（狭心症や急性心筋梗塞）の病態とリスク管理について理解し、説明できる。				〃
第 7 回	虚血性心疾患（狭心症や急性心筋梗塞）の理学療法について理解し、説明できる。				〃
第 8 回	心肺運動負荷試験（CPX）について理解し、説明できる。				〃
第 9 回	心不全の病態および理学療法について理解し、説明できる。				村上裕一
第10回	弁膜症や心筋疾患などの病態および理学療法について理解し、説明できる。				〃
第11回	大動脈疾患や先天性心疾患の病態および理学療法について理解し、説明できる。				〃
第12回	末梢動脈疾患の病態および理学療法について理解し、説明できる。				〃
第13回	静脈疾患の病態および理学療法について理解し、説明できる。				〃
第14回	再発予防とチーム医療の重要性、一次救命処置について理解し、説明できる。				〃
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 3年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	運動療法学Ⅶ（高齢者）
代 表 講 師	明 瀬 敬 二（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：15回（30時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士に必要な臨床能力を身に着けるために、学内において臨床経験豊富な専門力を持つ専任講師の指導の下、高齢者の心身機能、障害像、評価、プログラム立案及び地域高齢者と理学療法士のかかわりについて学習する。				
授 業 概 要	高齢者の心身機能の特徴や障害像、その評価とプログラム立案などについて指導していく。また、介護予防をはじめとした地域高齢者との関りについても指導していく。				
到 達 目 標	・ 高齢者の心身の特徴について理解し、説明できる。 ・ 高齢者の健康維持向上のための理学療法を理解し、説明できる。 ・ 高齢者の生活支援のための理学療法を理解し、説明できる。				
成績評価の方法と基準	形成的評価（100％）				
テキスト・教材等	『シンプル理学療法学シリーズ 高齢者理学療法学テキスト』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	ライフステージと高齢者：定義「老い」の受容・心構えについて理解し、説明できる				
第2回	高齢者の身体的・精神的（認知）特徴について理解し、説明できる。				
第3回	老年症候群の概要について理解し、説明できる。				
第4回	高齢者の生活機能評価：認知・精神機能評価、日常生活活動評価、QOL 評価				
第5回	高齢者の理学療法に伴うリスク管理について理解し、説明できる。				
第6回	高齢者の骨・関節障害（大腿骨頸部骨折）と理学療法について理解し、説明できる。				
第7回	高齢者の骨・関節障害（変形性膝関節症）と理学療法について理解し、説明できる。				
第8回	高齢者の中枢神経障害（脳血管障害）と理学療法について理解し、説明できる。				
第9回	高齢者の中枢神経障害（パーキンソン病）と理学療法について理解し、説明できる。				
第10回	高齢者の代謝障害（糖尿病）と理学療法について理解し、説明できる。				
第11回	高齢者の循環障害（心疾患）と理学療法について理解し、説明できる。				
第12回	高齢者の呼吸器障害（呼吸器疾患）と理学療法について理解し、説明できる。				
第13回	高齢者の悪性腫瘍（がん）と理学療法について理解し、説明できる。				
第14回	地域在住高齢者と理学療法士について理解し、説明できる。				
第15回	高齢者の健康寿命の延伸について理解し、説明できる。				

学 科	理学療法学科 3 年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	運動療法学Ⅷ（その他）
代 表 講 師	明 瀬 敬 二（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法業務に携わった経験を持つ教員が、がんリハ・ウィメンズヘルス・糖尿病などの内部障害に対して講義し、障害像や評価、プログラムの立案・実施などについて指導する。				
授 業 概 要	健康的で充実した QOL を各個人が主体的に取り組めるよう学習する。健康を軸にして社会情勢の変化と健康概念の変遷との関係を、理学療法士の健康増進活動における役割について概説し、健康増進・予防環境保健医学などの理解につなげる。				
到 達 目 標	・がんのリハビリテーションを理解し説明できる。 ・ウィメンズヘルスについて理解し説明できる。 ・排泄の評価と理学療法について理解し説明できる。 ・熱傷に対するリハビリテーションを理解し説明できる。 ・糖尿病ほか、代謝性疾患のリハビリテーションを理解し説明できる。 ・ニューロリハビリテーションについて理解し説明できる。				
成績評価の方法と基準	[筆記試験] 実施しない [準備学習・その他] 事前課題の提出、確認テスト（診断的評価・形成的評価）及びその他の課題シートを総合して評価する。 [備考] 課題は熊リハ Moodle に提示し、提出期限等について記載している。				
テキスト・教材等	『理学療法学講座 内部疾患理学療法学』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	がんの現状・がんのリハビリテーションの定義と目的を理解し、説明できる。				明瀬敬二
第 2 回	がんの特徴・がんの病期分類・がんの Stage 分類・部位別の特徴を理解し、説明できる。				〃
第 3 回	がんの基本治療を理解し、説明できる。				〃
第 4 回	がんのリハビリテーションを理解し、説明できる。				〃
第 5 回	女性に対する理学療法を理解し、説明ができる。				高田理恵子
第 6 回	排泄のメカニズムを理解し、高齢者における排泄リハビリテーションについて説明できる。				福島芳子
第 7 回	熱傷の概要と評価・重症度判定について理解し、説明できる。				〃
第 8 回	熱傷患者への注意事項を理解し、必要なリハビリテーションについて説明できる。				〃
第 9 回	糖尿病について理解し、説明できる。				明瀬敬二
第10回	糖尿病の分類および合併症について理解し、説明できる。				〃
第11回	糖尿病の原因と予防、理学療法について理解し、説明できる。				〃
第12回	その他の代謝性疾患（肥満、慢性腎臓病）について理解する。				〃
第13回	その他の代謝性疾患（肥満、慢性腎臓病）について理解する。				〃
第14回	ニューロリハビリテーション（基礎編：脳機能分析から身体運動への接近を試みる）				池田耕治
第15回	ニューロリハビリテーション（応用編：最近の知見から構造的臨床応用を試みる）				〃

学 科	理学療法学科 3 年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	理学療法治療手技論
代 表 講 師	福 島 芳 子（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前・後期：30 回（60 時間）
実務経験内容及 び授業内容 との関連性	理学療法業務に携わった経験を持つ教員が、提示された整形外科疾患の症例を通して、評価から治療プログラム立案、プログラムの実施までを解説し、指導する。その後、各専門的な治療手技を講義し、実技指導する。				
授 業 概 要	提示された整形外科疾患の症例に対して、問題点を考え治療プログラムの立案及び実施を TBL にて実施する。また、基礎知識や各症例に応じた治療手技についても学ぶ。				
到 達 目 標	理学療法士として臨床で必要な知識を統合し、基本的治療手技を身につける。 代表的な理学療法治療手技の理論およびその基本的手技について学ぶ。				
成績評価の方法と基準		前期:TBL で考えたレジュメの発表（30%）、TBL で考えた実技の発表（30%）、形成的評価（40%） 後期：形成的評価（各項目の担当者からの課題） 合計 100%			
テキスト・教材等		配布資料 他			
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	整形外科疾患の症例について基本的理学療法の立案をすることができる（T B L）				福島芳子 明瀬敬二 専任講師
第 2 回					
第 3 回					
第 4 回					
第 5 回					
第 6 回	症例について ICF での問題点抽出、目標設定、プログラム立案、統合と解釈をレジュメにて発表（T B L）				
第 7 回					
第 8 回	立案した内容を実際に実施して確認し、実技にて発表（T B L）				
第 9 回					
第10回					
第11回					
第12回	整形疾患症例を通して疾患概要、評価、運動療法、ADL について理解を深める				
第13回					
第14回					
第15回	まとめと形成的評価				
第16回	PNF 法の理論と実際				坂崎浩一
第17回	・上下肢の基本パターンについて				
第18回	シーティング、ポジショニングの評価と実践 （車椅子、姿勢保持装置）				高嶋美和
第19回					
第20回	中枢疾患の評価から治療まで：認知神経リハビリテーション（NCR）の視点 （基礎編）目的：NCR の理論的背景と、痙性麻痺に関する評価方法を理解する。 （応用編）目的：NCR を活用した痙性麻痺の治療アプローチを理解し、臨床応用について考える。				池田耕治
第21回					
第22回	徒手療法の理論と実践 ・関節可動域制限に対する徒手療法 ・筋出力、筋力低下に対する徒手療法 ・能力低下に対する徒手療法（脊柱への加入の可能性）				池田幸広
第23回					
第24回					
第25回	テーピングの理論と実践 （スポーツ現場での応急処置についての講義と実技）				高田理恵子
第26回					
第27回					
第28回	ウィメンズリハビリテーションの理論と実践 （女性生殖器・正周期についての講義と骨盤底筋群の触診及びトレーニングを実践）				高田理恵子 辻 陽子
第29回					
第30回					

学 科	理学療法学科 3 年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	物理療法学
代 表 講 師	池 田 幸 広（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前期：30 回（60 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法業務に携わった経験を持つ教員が、温熱療法や寒冷療法など物理療法の基礎知識に対して講義し、演習を通して指導する。				
授 業 概 要	物理療法の基礎知識から臨床場面における応用、適用の方法を講義と演習を交えて指導する。各単元の終わりには演習課題を出し、学習成果を確認する。				
到 達 目 標	1. 物理療法の意義・目的を述べることができる。 2. 物理療法の適用・禁忌を述べることができる。 3. 物理療法器具の基本的操作ができる。				
成績評価の方法と基準	単元毎に形成的評価を実施 ※筆記試験は実施しない（80%）、演習レポート（20%）				
テキスト・教材等	『Crosslink 理学療法学テキスト 物理療法学』				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	総論：物理療法とは 機器特性の特性によって作用・対象が異なることをイメージできる。				
第 2 回	総論：物理療法の主な対象① 主な対象（炎症、可動域制限、疼痛、筋緊張亢進）である機能障害を把握する。				
第 3 回	総論：物理療法の主な対象② 主な対象（炎症、可動域制限、疼痛、筋緊張亢進）である機能障害を把握する。				
第 4 回	温熱療法の基礎 作用機序、適応・禁忌				
第 5 回	温熱療法① ホットパック 機器の特性、使用手順				
第 6 回	温熱療法② パラフィン 機器の特性、使用手順				
第 7 回	温熱療法③ 電磁波療法：極超短波療法（マイクロ） 機器の特性、使用手順				
第 8 回	温熱療法③ 超短波療法・ラジオ波 機器の特性、使用手順				
第 9 回	温熱療法④ 超音波療法 温熱刺激 機器の特性、使用手順				
第10回	温熱療法④ 超音波療法 非温熱刺激 機器の特性、使用手順				
第11回	寒冷療法の基礎 作用 適応・禁忌				
第12回	寒冷療法① アイスパック 機器の特性、使用手順				
第13回	寒冷療法② コールドスプレー 機器の特性、使用手順				
第14回	演習①				
第15回	演習①				
第16回	電気刺激療法の基礎				
第17回	電気刺激療法① 神経筋電気刺激（NMES） 機器の特性、使用手順				
第18回	電気刺激療法① 神経筋電気刺激（NMES） 機器の特性、使用手順				
第19回	電気刺激療法② 経皮的電気刺激（TENS） 機器の特性、使用手順				
第20回	電気刺激療法③ 機能的電気刺激（FES） 機器の特性、使用手順				
第21回	光線療法の基礎 作用 適応・禁忌				
第22回	光線療法 赤外線、レーザー療法 機器の特性、使用手順				
第23回	牽引療法の基礎 作用 適応・禁忌				
第24回	牽引療法 頸椎牽引・腰椎牽引 機器の特性、使用手順				
第25回	水治療法 水の特性を把握する（浮力・静水圧・動水圧・温度）				
第26回	水治療法① 過流浴・気泡浴・交代浴 機器の特性、使用手順				
第27回	演習② 機器の使用方法確認と実施前後の比較検証				
第28回	演習② 機器の使用方法確認と実施前後の比較検証				
第29回	プレゼン① 演習②で得た情報を共有し理解を深める。				
第30回	その他の物理療法 まとめ				

学 科	理学療法学科 3年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	義肢装具学Ⅱ
代 表 講 師	石 内 寛 丈 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 福 島 芳 子 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：15回（30時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	実際の義肢を用いてその特徴やチェックアウトなどの基本的事項と異常歩行の原因について講義する。また、整形外科領域に係る教員が切断の評価及び理学療法について講義する。				
授 業 概 要	義肢を製作適合する義肢装具士と理学療法士との連携は必要不可欠なものであり、義肢使用者のADL向上に大きく影響する。理学療法士として基本的な義肢の構造や調整方法の基本、義足歩行を理解する上で必要な知識を学習する。				
到 達 目 標	（石内）義肢に関する基本的な事項を理解し、特徴とチェックアウト、異常歩行について説明することができる。各種継手の機能と特徴を説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	『義肢装具のチェックポイント』、『PT・OT ビジュアルテキスト 義肢学・装具学』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	上肢切断の特徴、義手の種類、能動義手・電動義手について				石内寛丈
第2回	足部部分義足の種類と適合評価、サイム切断の特徴とサイム義足ソケットの種類と適合評価				〃
第3回	下腿義足ソケットの種類と特徴および適合評価				〃
第4回	足継手と足部				〃
第5回	下腿義足のアライメント				〃
第6回	大腿義足ソケットの種類と特徴				〃
第7回	膝継手と股継手				〃
第8回	大腿義足アライメント				〃
第9回	大腿義足アライメント				〃
第10回	膝義足ソケットの種類と適合評価				〃
第11回	股義足ソケットの種類とアライメント				〃
第12回	下肢切断の理学療法評価				福島芳子
第13回	下肢切断者に対する理学療法プログラム				〃
第14回	まとめ				〃
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 3 年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	理学療法学研究 I
代 表 講 師	明 瀬 敬 二（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
実務経験内容及 び授業内容 との関連性	理学療法士に必要な問題解決能力を身につけるため、各々の専門性をもった教員の指導のもと、対象者の運動療法を実践するにあたり、必要な評価や訓練方法について学習し、客観的に分析することを学ぶ。				
授 業 概 要	臨床において日々の疑問を解決するためには、文献検索や症例検討などは必要である。 理学療法研究を進めるにあたり、対象や介入方法，評価・測定方法などの研究デザインを考え、研究計画書を作成する。				
到 達 目 標	論文の構成について理解することができる。 理学療法研究の進め方について理解することができる。 理学療法領域における様々な事象に興味関心をもち、科学的思考を深めながら自らの卒業論文研究計画を立案することができる。				
成績評価の方法と基準	研究計画書（100％）				
テキスト・教材等	文献・ジャーナル・配布資料等				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	研究計画の考え方・進め方を理解する。				池田耕治 福島芳子 高田理恵子 明瀬敬二 高嶋美和 池田幸広 坂崎浩一
第 2 回					
第 3 回	ワークショップ ・先行研究の精査とレジメを作成する。 ・グループ内での意見交換と研究の方向性を検討する。				
第 4 回					
第 5 回	ワークショップ ・複数の文献をもとに、立てられた仮説や疑問の検証方法について検討する。				
第 6 回					
第 7 回	ワークショップ ・対象の妥当性について検討する。 ・方法の妥当性と基本的統計手法について検討する。				
第 8 回					
第 9 回	個別指導 ・研究テーマ、仮説、対象、具体的方法論を検討する。				
第10回					
第11回					
第12回	研究計画書の作成（１次審査）				
第13回	予備実験の実施と研究計画書について再検討する。				
第14回					
第15回					

学 科	理学療法学科 3 年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	理学療法演習Ⅲ
代 表 講 師	明 瀬 敬 二（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
実務経験内容及 び授業内容 との関連性	理学療法士に必要な能力を身に付けるため、各々の専門性を持った教員の指導のもと、対象者の運動療法を実践するにあたり、必要な評価や訓練の方法について学ぶ。				
授 業 概 要	1 年次では『リハビリテーション医療』における身体に関する基本的知識を学び、2 年次では「解剖学」・「生理学」・「運動学」の 3 教科を臨床に向かうため応用することを学んだ。3 年次では臨床場面で多く経験する疾患毎のリスク管理や理学療法の展開について学ぶ。				
到 達 目 標	臨床場面で多く経験する疾患について、理学療法の展開において症例を把握するために、治療場面を想定して思考・実践することができる。				
成績評価の方法と基準		各担当終了時に形成的評価を実施する。（100%） 池田担当分（プレ及びポストテストの成績で換算する）			
テキスト・教材等		配布資料 等			
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	オリエンテーション（各担当より演習内容の説明）				池田耕治 福島芳子 高田理恵子 明瀬敬二 高嶋美和 池田幸広
第 2 回	理学療法における臨床場面において、経験する以下の疾患について演習を通して、理学療法の展開について学ぶ。 ①中枢性疾患 1（脳血管疾患） ②中枢性疾患 2（パーキンソン病） ③整形外科疾患 1（骨折・外傷） ④整形外科疾患 2（脊髄損傷） ⑤小児疾患（脳性まひ・二分脊椎・小児期の筋ジストロフィー） ⑥内部疾患 1（糖尿病・CKD 等代謝疾患・がんリハ）				
第 3 回					
第 4 回					
第 5 回					
第 6 回					
第 7 回					
第 8 回					
第 9 回					
第10回					
第11回					
第12回					
第13回					
第14回					
第15回					

学 科	理学療法学科 3 年次	教育 内容	地域理学療法学	科目名	生活環境論
代 表 講 師	高 嶋 美 和（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・実技	単位数	1	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	医療機関や療育施設等で小児リハビリテーションの実務経験を有する理学療法士が講師を担当する。臨床現場での知見に基づき、家屋改修など生活環境整備について講義する。				
授 業 概 要	高齢者および障害者の自立した生活を支えるための理念（QOL の向上やノーマライゼーション）を学習し、福祉用具の活用や住宅改修を通じた生活支援のあり方について検討する。特に、家族や介助者の負担軽減（介助負担の軽減）を視点に入れ、安全で利便性の高い生活環境整備の範囲と具体策について講義を行う。				
到 達 目 標	1. 高齢者や障害者が日常生活で直面する障壁（バリア）を把握し、心身機能に応じた生活環境上の課題を具体的に提案できる。 2. 対象者が安全かつ安楽に過ごせるよう、福祉用具の活用や住宅改修など、根拠に基づいた適切な環境改善策を提案できる。 3. 単なる動作の自立だけでなく、対象者が「楽しみ」や「生きがい」を感じられるような、生活の質（QOL）に配慮した環境整備のあり方を説明できる。				
成績評価の方法と基準	講義中の講義レポートを含む形成的評価 100%				
テキスト・教材等	『福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級公式テキスト 改訂 7 版』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	理学療法における生活環境学の考え方、障害のとりえ方高齢者の特徴を理解し説明ができる。				高嶋 美和
第 2 回	生活環境整備に関連する法的制度について理解し説明ができる。				〃
第 3 回	生活環境整備の基本を理解し、説明ができる。				〃
第 4 回	生活環境整備の基本を理解し、説明ができる。				〃
第 5 回	生活環境整備の基本を理解し、説明ができる。				〃
第 6 回	生活環境整備の基本を理解し、説明ができる。				〃
第 7 回	住環境についての考え方を理解し、説明できる。				〃
第 8 回	住環境についての考え方を理解し、説明できる。				〃
第 9 回	住環境についての考え方を理解し、説明できる。				〃
第10回	住環境についての考え方を理解し、説明できる。				〃
第11回	介護を要する方への住環境整備のサポートの実際を理解し、説明ができる。				〃
第12回	介護を要する方への住環境整備のサポートの実際を理解し、説明ができる。				〃
第13回	移動能力別に見た脊髄損傷における生活上の問題点と住環境の概要を理解する。				福島 芳子
第14回	頸髄損傷の住環境の概要について理解する。				〃
第15回	頸髄損傷・脊髄損傷の住環境と福祉用具・移動用具について理解する。				〃

学 科	理学療法学科 3 年次	教育 内容	地域理学療法学	科目名	福祉用具論
代 表 講 師	高 嶋 美 和（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・実技	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	医療機関や療育施設等において小児リハビリテーションの実務経験を有する理学療法士が講師を担当する。臨床現場での知見に基づき、福祉用具の概要・名称・構造について解説するとともに、個々の症例に応じた適切な適合（フィッティング）判定や具体的な使用方法について、実技を交えて講義を展開する。				
授 業 概 要	福祉用具の概要、名称と構造について説明し、その適合と使用方法について説明し、実技を行う。				
到 達 目 標	・専門的な立場から患者・利用者に福祉用具の必要性と使い方を説明できる。 ・福祉用具を使用し、する側とされる側の感覚を体験する。				
成績評価の方法と基準	講義中の講義レポートを含む形成的評価 100%				
テキスト・教材等	『福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級公式テキスト 改訂 7 版』				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	・福祉用具概論 福祉用具とその定義、役割、分類、障害特性と福祉用具について説明できる。				
第 2 回	・福祉用具概論 ノーリフティングケアについて（概要と体の使い方）について説明できる。				
第 3 回	・起居動作関連用具 特殊寝台（付属品）の構造と選び方、使用方法について説明できる。				
第 4 回	・起居動作関連用具 褥瘡と褥瘡予防用具（エアマット・マットレスなど）について説明できる。				
第 5 回	・食事・更衣・整容動作：食事・更衣・整容関連用具（自助具）、コミュニケーション用具				
第 6 回	・移動動作関連用具：歩行関連用具 1（杖各種）				
第 7 回	・移動動作関連用具：歩行関連用具 2（歩行器各種）				
第 8 回	・移乗動作関連用具：移乗補助具 1 スライディングシート、グローブについて説明できる。				
第 9 回	・移乗動作関連用具：移乗補助具 2 スライディングボード、リフトについて説明できる。				
第10回	・移動動作関連用具：車椅子の種類・構造、使用法				
第11回	・移動動作関連用具：シーティングの基礎知識 1				
第12回	・移動動作関連用具：シーティングの基礎知識 2				
第13回	・排泄動作関連用具 補助便座、トイレ用車椅子、集尿器について説明できる。				
第14回	・入浴動作：入浴関連用具				
第15回	総 括				

学 科	理学療法学科 3 年次	教育 内容	臨床実習	科目名	評価実習Ⅱ
代 表 講 師	明 瀬 敬 二（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	実 習	単位数	3	学期・回数	後期：120 時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士に必要な能力を身につけるため、病院・施設等の臨床現場において、実習指導者の指導のもと、臨床参加型の実習にて、症例の評価、問題点の抽出・治療プログラムの立案実施を行う。				
授 業 概 要	対象者の身体的・内面的評価、治療計画の立案、具体的治療の実施、記録と報告、再評価など基本的理学療法臨床能力を身につける。また、その過程で理学療法士としての未決課題を発見し、解決への努力をする。				
到 達 目 標	基本的理学療法について、十分な指導・助言により行動目標に到達できるレベルまたは十分な指導・助言により模倣できるレベルを目標とする。				
成績評価の方法と基準	OSCE（客観的臨床能力試験）（50％） ポートフォリオ評価（30％） 記述試験（20％）				
テキスト・教材等	臨床実習の手引き・実施要項他				
回 数	授 業 内 容				担当講師
8 週間	期 間：2026 年 10 月 13 日（火）～ 10 月 31 日（土） 学習内容： - 臨床実習指導者の指導を受けながらの患者の評価、治療計画の立案、具体的治療の実施。 - その他記録・報告、再評価等の一貫した治療行為を習得する。 - 理学療法士の管理運営業務を学ぶ。 - 患者に対する総合的リハビリテーションサービスの中における理学療法の意義を考え、理学療法士の役割と機能を学ぶとともに今後進むべき方向、研究テーマを考える。医療人としての態度を身につける。				臨床実習指導者

学 科	理学療法学科 3 年次	教育 内容	臨床実習	科目名	地域理学療法実習
代 表 講 師	明 瀬 敬 二（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	実 習	単位数	1	学期・回数	後期：40 時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	現役の理学療法士が病院・施設等の臨床現場において、臨床参加型実習にて、地域理学療法の一連の流れについて経験を通して教育を行う。				
授 業 概 要	- 実際の現場で 1 週間実習しながら、デイケアや訪問リハの流れや制度について学ぶ。 - 地域で生活をしている障害者、高齢者に対しての理学療法の知識・技術がどのように活用できるかを、実習を通して学ぶ。 「暮らしを営む」ということはどういうことかを認識し、理学療法士はどのように関わっていくかを学ぶ。 - 社会的資源をどのように活用しながら在宅生活を営んでいるかを学ぶ。 - 家族を含め、他職種とのつながり、連携の重要性について学ぶ。 - 担当学会議、カンファレンス等への参加を通じ、サポート体制、他職種との連携の重要性について学ぶ。				
到 達 目 標	- 介護保険や福祉サービスの制度について理解する。 - 対象者の理学療法ニーズを把握することができ、そこからどのような理学療法サービスを提供していくかを理解することができる。				
成績評価の方法と基準	・ポートフォリオ評価（50％）・記述試験（50％）				
テキスト・教材等	臨床実習の手引き・実施要項 他				
回 数	授 業 内 容				担当講師
1 週間	期 間：2026 年 11 月 30 日（月）～ 12 月 5 日（土） 学習内容： - 地域で働く理学療法士の業務内容と役割について - 他職種との連携について - 担当学会議、ケアカンファレンスへの参加 - 在宅生活を支援する資源について - 福祉用具の選定、住宅改修・環境調整等への参加 - その他、可能な範囲での理学療法体験				臨床実習指導者